

	通学区域自由化制度について	部活動について	ICTの活用について	CS(コミュニティスクール)について	学校規模のあり方について	規模適正化方針策定後の取組について
第1回	<p>◆この制度は一定の役割（目的を持って学びたい学校を選択できる）を果たしている。</p> <p>◆子ども自身の意見（願い）は尊重されるべきである。</p> <p>◆ICT活用や新型コロナウイルス感染症等の新しい社会状況を踏まえて、規模や部活動だけではない学校の魅力やあり方の問い直しがされている。</p> <p>◆学校選択制度の意義・目的は整理をする必要がある。</p>	<p>◆部活動は多様な力をつける場として有効なものである。</p> <p>◆地域環境や学校規模にかかわらず、やりたい活動ができる環境があることが望ましい。</p> <p>◆地域等でまとまって活動ができる環境づくりを進める必要がある。</p> <p>◆小規模校でも、バス等で移動しないで部活動を行うことができれば多くの時間を部活動に使えるため望ましい。</p>	<p>◆個の学びを深めることやこれまで以上にわかる授業を創ることにつながる大切であり、そのためのツールである。</p> <p>◆ICT活用による仮想・疑似体験と実体験の両方ができる三次の環境を活かせる、三次ならではの活用方法が考えられる。</p> <p>◆コロナ禍を通して、活用の効果や工夫が広がっている。</p> <p>◆学校の働き方改革につながるものにもしたい。</p> <p>◆使いこなすことと併せて、活用することでの変化や向上につなぎたい。</p> <p>◆活用の工夫により、学級単位の枠組みを超える学びができるなど、学校規模の課題を克服できる面もある。</p>	<p>◆地域と学校が双方向に作用しあうWin-Winとなる取組が大切である。</p> <p>◆住んでいる地域と子どもや保護者がつながりあえる関係づくりやそのための工夫が求められている。</p> <p>◆一人一人の子どもたちが大切にされることにつなぎたい。</p> <p>◆三次版のコミュニティ・スクールの在り方を考えることで、学校の役割や地域の在り方を考える機会としたい。</p>	<p>◆子どもにとってどうあるべきかを第一として検討する。</p> <p>◆基準となっているかどうかにかかわらず、教育の充実のためには絶えず検討していくことは必要である。</p>	<p>◆学校における教育活動について、実態把握を進める。（対象や内容は検討）</p> <p>◆市民への情報発信を継続的に行いながら、取組の見える化を進める。</p>
第2回	<p>◆制度自体は平成26年度にも見直しがされ、改善されている。これ以上の見直しの必要は無いのではないか。各学校の魅力づくりに寄与する部分もある。</p> <p>◆選択肢を増やすということは子どもたちにとっても有益である。</p> <p>◆小学校への居づらさがあるために、中学校で制度を利用している生徒もおり必要性はある。</p> <p>◆選択理由に注視することは必要と思う。</p> <p>◆小規模校に、子どもを呼び込むこともできるのではないか。</p> <p>◆地域の過疎化につながるのではないかとという危惧も一面ではある。</p>	<p>◆部活動は幅広い人間形成や社会性を身に付ける点において有益である。</p> <p>◆教職員の働き方改革を進めるためにも、学校だけで部活動を運営していくことは困難であり、地域の協力が不可欠である。学校という狭い枠を超えて市全域で人材を活用していくことも検討すればよい。</p> <p>◆教育委員会だけでなく、地域に精通している部署（地域振興課等）と連携を取りながら進める必要がある。</p>	<p>◆ICTが導入され、使いこなすところまでは各学校でも対応は可能であろう。しかし、ICTを活用して学びの環境をどう変えていきたいかという点は、教育委員会としてビジョンをしっかりと示して進めていかなければならない。</p> <p>◆ICTを活用した学校間連携の強化、また、病気等による長期療養者や不登校の児童生徒への新しい学びの機会の提供にもつながるものである。</p> <p>◆ICTはすべての問題を解決するものではない。自然豊かな三次でのリアルな学び、人との関わりの中での成長、将来にわたって子どもたちに育ませたい力を見据えながら、ICTをうまく活用することが必要である。</p>	<p>◆これまでの学校評議員・地域サポーターは発展的にコミュニティ・スクール構想につながっていくと考えるが、保護者も取り込んでいくことが必要であり、主体的な運営につなげてほしい。</p> <p>◆学校運営や人事、予算などにも関わることにより、運営協議会の委員は、これまで以上に責任も増す。この認識をもって地域の方にも関わっていただく必要がある。</p> <p>◆運営協議会の人選は、丁寧に行う必要がある。</p>	<p>◆前回方針と今回答申のいずれも「複式」は統廃合の一つの基準となっている。今一度「複式」の問題点を学校視点・子ども視点の両方で整理する必要がある。</p> <p>◆答申ではICTを活用する提案もあるが、人との関わりがICTの活用で十分に補完できるのかという見極めは必要である。</p> <p>◆規模適正化を学級数で捉えるのか、人数で捉えるのか、市民に伝わりやすい形はどうか。学級編制に係る教職員の配置は、標準法に基づいて学級数で行われている。この点を考慮すると、学校運営の観点から学級数が目安となるのではないか。</p> <p>◆適正化の一つの目安を決めることは必要であるが、それ以上にこの議論が一過性ではなく継続して行われる場が必要ではないか。</p> <p>◆複式学級には一人一人にきめ細かい指導ができるなど良い面もある。目安を複式学級とするのであれば、その意味を整理することは必要である。</p>	
第3回			<p>◆学校現場でのICTの活用の可能性については、イメージの段階を超えられていないと思う。発展途上の段階ではあるが、ICTの活用によりできることとできないことの見極めは必要である。</p> <p>◆三次市がICT活用の先進地として発信できるぐらいに新しい発見を積極的に取り入れていく姿勢が重要だと思う。</p>	<p>◆統廃合により通学区域が広域化したときのコミュニティ・スクールのあり方や三次市らしさを活かす工夫が必要である。</p>	<p>◆ICTや地域力を活用してもなお、子どもに必要な力をつける限界があるという観点から、答申で目安が示されている。答申は尊重していく必要がある。</p> <p>◆答申にある中学校の複式をどう捉えるか。広島県では複式が必要となった場合も加配教員の配置により解消されているのが現状。地域・保護者にわかりやすい目安とすることも必要である。</p>	<p>◆小規模・大規模のメリット・デメリットをわかりやすく保護者や地域に示したうえで、多様な選択肢を示すことが必要。結論ありきの議論は望ましくない。</p> <p>◆学校規模の大小によらず、より良い学びの環境とはどういったものか常に意識しながら議論は継続していかなければならない。</p>